

平成30年度第2回
青森県子どもの貧困対策等推進委員会

青森県子どもの生活実態調査の概要について

平成31年3月
青森県健康福祉部こどもみらい課

「青森県子どもの生活実態調査」調査結果概要について

【調査目的・概要】

1 調査の目的

子どもの貧困は単なる経済的困窮だけにとどまらず、様々な要因が複合的につながって世代間の貧困の連鎖を招いているといわれている。本調査はその実態を多面的に把握するために実施した。

2 調査概要

- (1) 実施地域 青森県全域
- (2) 調査対象 小学校5年生と中学校2年生の子どもとその保護者
- (3) 標本数
子ども5, 187人
保護者5, 187人 計10, 374人
- (4) 抽出方法・調査方法
住民基本台帳から1/4の者を無作為抽出、郵送によるアンケート調査
- (5) 調査期間 平成30年11月9日～12月7日
- (6) 調査内容
①生活困難度 ②教育の機会均等 ③健やかな成育環境
④支援制度の利用意向等
- (7) 回収結果（有効回答数）
子ども 2, 642人（回収率 50.9%）
保護者 2, 683人（回収率 51.7%）

3 主な調査結果

別紙のとおり

【今後の対応】

③1地域の子ども支援ネットワーク形成事業（重点枠・継続）

①地域の子ども支援ネットワーク会議

青森県で不足している取組を検討し、子どもの貧困対策に取り組む機関・団体の活動を後押し

②子どもの居場所づくり推進コーディネーター設置事業

地域コーディネーターを育成し、子どもの居場所づくりの設置を促進

③子どもの総合支援推進研修会

支援を必要とする子どもが、いずれの機関で把握されても総合的な支援を受けられる仕組みづくりの研修

子どもの学習支援関連事業

①生活困窮世帯児童等学習支援事業（町村部対象）

②ひとり親家庭等生活向上事業費補助（市部対象）

青森県の未来を担う子どもたちが、青森で生まれ、希望をもって成長し、その希望をふるさと青森の地で実現

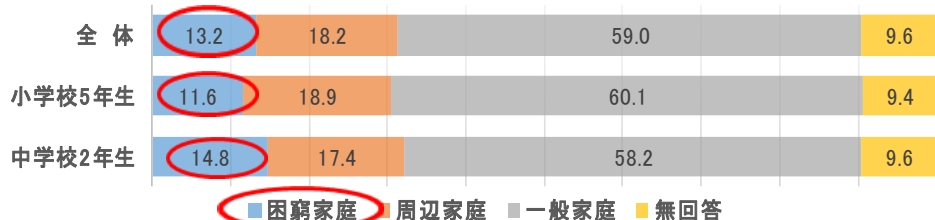
貧困の連鎖解消へ



別紙「青森県子どもの生活実態調査」の主な調査結果

①「生活困難度」について

困窮家庭は全体では13.2%



子どもの貧困の実態を多面的に把握するため、「低所得」「家計の逼迫」「子どもの体験や所有物の欠如」の3つの要素の回答から調査(東京都などと同じ調査)

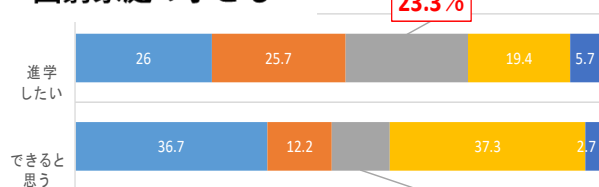
2つ以上に該当世帯⇒**困窮家庭**
1つに該当世帯⇒**周辺家庭**
該当なし⇒**一般家庭**

A 低所得	所得が国民生活基礎調査の貧困線(例:親2人子ども1人の三世帯の場合211万円)の基準を下回る世帯
B 家計の逼迫	①電話料金②電気料金③ガス料金④水道料金⑤家賃⑥食料⑦衣類について、経済的理由により支払えなかったことが1つ以上ある世帯
C 子どもの体験や所有物の欠如	海水浴に行く、毎月お小遣いを渡す、学習塾に通わせる、自宅で宿題をすることができる場所がある等の15項目について、欠如している項目が3つ以上ある世帯

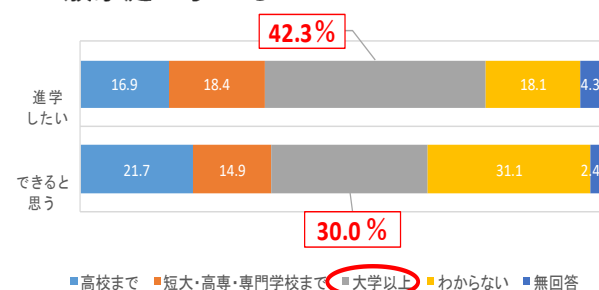
②教育の機会均等

① 大学進学希望(「進学したい」と「進学できると思う」の違い)(子ども全体)

< 困窮家庭の子ども >



< 一般家庭の子ども >

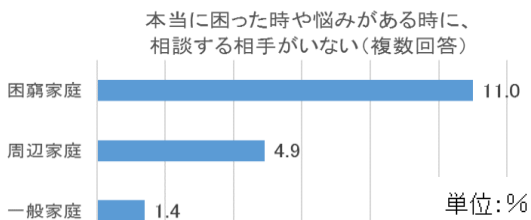


③健やかな成育環境

区分	困窮家庭 (%)	一般家庭 (%)
① 平日の朝ごはん(食べない方が多い・食べない)(子ども全体)	7.5%	2.4%
② 自分専用の机(ない・ほしい)(子ども全体)	20.0%	9.0%
③ 過去1年間に食料を買えなかったこと(よくあった)(保護者全体)	12.4%	0%
④ 自分は価値のある人だと思う(思わない・あまり思わない)(子ども全体)	46.5%	31.6%
⑤ 親の15歳の頃の暮らし向き(大変苦しかった)(保護者全体)	19.5%	10.5%

④支援サービスの利用意向

① 困ったことの相談先の有無(保護者全体)



② 子ども食堂・学習支援の利用意向(困窮家庭・保護者全体)

- 子ども食堂
利用したことがない・利用してみたい 44.1%
- 学習支援
利用したことがない・利用してみたい 70.1%